

二〇二五年度 健和看護学院 国語入試問題

(その一)

◆◆◆ 解答は、すべて解答用紙に書くこと。 ◆◆◆

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人と人との(つながり)の問題を考える最初の出发点として、人は本当に一人では生きられないのか、それとも、まあそれなりに生きていけるのかといった問いを立ててみましょう。

かつての日本には①「ムラ社会」という言葉がよく表現されるような地域共同体が存在していました。「近所の人の顔と名前はぜんぶわかる」といった集落がそれですね。これは、何も地方の農村や漁村だけに限ったことでなく、東京のような都会にだってあったのです。「ALWAYS 三丁目の夕日」——映画ですから、描き方にはフィクションの要素も多分に入っているとはいえ——のように、近所に住む住人同士の関係が非常に濃密な「町内」が、昭和四〇年くらいまでの日本には確かにありました。そんな「ムラ社会」が確固として存在した昔であれば、これは②明らかに「一人では生きていけない」ということは厳然とした事実でした。

なにより、食料や衣類をはじめ、生活に必要な物資を調達するためにも、仕事に就くにしても、いろいろな人たちの手を借りなければいけなかったからです。こうした、物理的に一人では生活できない時代は長く続きました。だから村の交際から締め出されてしまう「村八分」というペナルティは、わりと最近まで a シカツ問題 だったわけです。

ところが近代社会になってきて、貨幣(＝お金) というものが、より生活を b バイカイする手段として浸透していくと、極端な話お金さえあれば、生きるために必要なサービスはだいたい c キョウジュ できるようになりました。

とりわけ、今はコンビニなど二十四時間営業の店も増え、思い立った時にいつでも生活 d ヒツジュ 用品は手に入れられるし、ネットショッピングと宅配を使えば、部屋から一步も出ずにあらゆるサービスを受けることも可能になっています。働くにしても、仕事の種類によってはメールとファックスで全部 e スン してしまう場合だってあります。

このように、独りで生きていても昔のように困ることはありません。生き方としては、「誰ともつきあわず、独りで生きる」ことも選択可能なのです。ある意味で、「人は一人では生きていけない」というこれまでの前提がもはや成立しない状況は現実には生じているといえるのです。

さて、③ こうした現代的状況を目の前にして私が言いたいのは、「だから、一人でも生きていけるんだよ」ということではありません。みんなバラバラの自分の欲望のおもむくままに勝手に生きていきましようといったことでもありません。「一人でも生きていくことができてしまう社会だから、人とつながることが昔より複雑で難しいのは当たり前だし、人とのつながりが本当の意味で大切になってきている」ということが言いたいのです。つながりの問題は、こうした観点から考え直したほうがよさそうです。

今の私たちは、お金さえあれば一人でも生きていける社会に生きています。

でも、普通の人間の直感として「そうは言っても、一人はさびしいな」という感覚がありますね。本当に世捨て人のような生活が理想だという人もいないわけではありませんが、たいてい、仮にどんなに孤独癖の強い人でも、まったくの独りぼっちではさびしいと感じるものです。

I なぜ④ 一人ではさびしいのでしょうか。やはり親しい人、心から安心できる人と交流していたい、誰かとつながりを保ちたい。そのことが、人間の幸せのひとつの大きな柱を作っているからです。だからほとんどの人が友だちが欲しいし、家庭の幸せを求めているわけです。

あの人と付き合うと便利だとか便利じゃないとか、得だとか損だとかいった、そういった利得の側面で人がつながっている面もたしかにあるけれども、しかし人とのつながりはそれだけではないわけです。

II 「人は一人でも生きていけるか」という問いに対する私の答えは、「現代社会において基本的に人間は経済的条件と身体的条件がそろえば、一人で生きていくことも不可能ではない。しかし、大丈夫、一人で生きていけると思い込んでいても、人はどこかで必ず他の人々とのつながりを求めがちになるだろう」です。

(『友だち幻想』菅野仁)

問一 二重傍線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①とはどういうものか。本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

問三 傍線部②のは、なぜか。簡潔に答えなさい。

問四 空欄 I～II にあてはまる適当な言葉を後のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア つまり イ だから ウ そうして エ すなはち オ でも

問五 傍線部③とあるが、筆者の言いたいこととはどういうことか。本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

問六 傍線部④とあるが、それはなぜだと筆者は考えていますか。わかりやすく簡潔に答えなさい。

二 次の空欄に適当な漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

(その二)

1 一日千□

2 三□四温

3 変幻□在

三 次の1～3の慣用句・ことわざ・故事の()にあてはまる適当な言葉を漢字一字で答えなさい。

1 竹馬の()

2 弘法も()の誤り

3 朝令()改

四 次の語の反対語を、それぞれ後の語群から一つ選び、漢字で答えなさい。

1 至難

2 過激

3 融解

(語群) コンナン キュウゲキ オンケン アンイ ギョウコ アンラク

五 傍線部の例文における意味として最も適当なものを、①～⑤のうちから選び記号で答えなさい。

1 耳をそばだてれば彼の息づかいまでが聞こえてくるようだった。

① 注意して聞くと ② 怖がって聞くと ③ まじめに聞くと

④ 横を向いて聞くと ⑤ そばで聞くと

2 ひとしきり商品を見てまわった後、その中のひとつを指した。

① 時間をかけてゆっくりと ② しばらくのあいだ盛んに ③ またたく間にそそくさと

④ 区切りのつくまで心して ⑤ ほんの束の間さりげなく

3 昨日と同じ服なのを指摘するのははばかられた。

① 憂慮された ② 甘受された ③ 配慮された ④ 懸念された ⑤ 遠慮された

六 次の文は小説の冒頭部分である。1は作者名を、2は、作品名と作者名をそれぞれ感じて正しく答えなさい。

1 高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である。徳川時代に罪人が遠島を申し渡されると、本人の親類が牢座敷へ呼び出されて、そこで暇乞いをすることを許された。

2 山路を登りながら、かう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。